

ID:

病名:

現在の症状:

患者氏名:












様

主治医氏名:

印 担当者氏名:

在宅復帰支援担当者名:

本人・家族署名:

フェーズ	1日目		2日目		3日目		4～9日目		10～17日目			
入院日数	入院日		手術当日（術前）		手術当日（術後）		術後1日目		術後2～7日目			
達成目標	医師・看護師の説明を受け、手術に対する不安が軽減する		安心して手術に望める		<ul style="list-style-type: none"> 創部の異常がない 痛みが少なく安楽に過ごせる 		痛みがコントロールできトイレまで歩行できる		意欲的にリハビリが行なえる		退院後の生活に自信が持てる	
記録												
医師指示	寝る前に、便を出す薬と安定剤を飲んでいただきます		必要があれば、朝、洗腸を行なうことがあります								退院後の生活について説明があります	
観察・モニタ					<ul style="list-style-type: none"> 朝まで心電図モニター、血圧を定期的に測定します 酸素吸入を行ないます 							
検査	心電図・血液検査・尿検査などを行ないます						血液の検査があります					
画像診断	胸部レントゲンをとります						午前中胸のレントゲンをとります					
内服・外用	現在飲んでいる薬を確認します		朝、必要な薬のみ飲んでいただきます				許可があれば飲み薬を再開します					
注射			点滴をします						点滴の抗生剤を行います			
治療・手術・リハビリ			手術をします（時分）～		 <ul style="list-style-type: none"> 創部に排液の管が入っています 弾性ストッキングを装着します 		<ul style="list-style-type: none"> 尿管を抜き歩行が開始できれば弾性ストッキングを除去します 傷の消毒を行ないます 患側上肢のリハビリを行ないます 患側上肢に弾性スリーブを装着します。 		<ul style="list-style-type: none"> 傷の消毒を行ないます 術後7日前後で創部の抜糸を行ないます 		<ul style="list-style-type: none"> 排液バックの排液が少量になれば、抜去します 術後の下着について説明します 術後14日前後で退院が可能です 	
活動・清潔	<ul style="list-style-type: none"> 特に制限はありません 腋の毛剃りを行なった後シャワーに入ってください 		点滴前に手術用の病衣に着替えます		病室に戻ってきてからは安静に休んでください		身体を拭きます 		<ul style="list-style-type: none"> 下半身のシャワーは可能です 洗髪も可能です 		排液バックが抜ければ、全身シャワーが可能です 	
食事・栄養	食事は24時から絶食です 栄養管理の有無（有・無）		朝6時まで飲水可能です		飲んだり、食べたりはできません（うがい可） 		<ul style="list-style-type: none"> 朝から水分摂取ができません 昼から全粥が開始になります 		朝より、常食（治療食）が開始になります			
教育・指導	<ul style="list-style-type: none"> 医師より手術についての説明があります 手術に必要なものを準備してください（パスカ、三角巾） 術後のリハビリについて説明します 		<ul style="list-style-type: none"> お化粧はしないで下さい 時計、義歯、アクセサリーは全て外して下さい 		<ul style="list-style-type: none"> 手術が終わるまでは家族の方は病室で待っていただきます 手術の結果をご家族に説明いたします 痛み、吐気など色々な症状があれば我慢せずに申し出てください 		<ul style="list-style-type: none"> 午後より、パンフレットに沿って患側上肢のリハビリを行ないます 		<ul style="list-style-type: none"> 内服薬について薬剤師が説明にまいります 術後の下着（装具）について説明します <退院後の注意点> <ul style="list-style-type: none"> 抵抗力が弱くなっているため、患側上肢の外傷や火傷に注意し感染しないように注意してください 患側で重たい物を持ったり、締め付ける服は避けましょう 			

*病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わり得るものです。

*入院期間については、現時点で予想されるものです。